かしこく　やさしく　たくましく
国際感覚を身に付け、確かな学力と人間性を備えた児童生徒の育成

めざせ！南十字星

笑顔があふれ、しあわせを感じられる学校

学 校 便 り
令和７年 ７月国際交流号
ヨハネスブルグ日本人学校

オルランド子どもの家(孤児院)との国際交流を行いました！

今年度２回目の国際交流では、オルランド孤児院を訪問し、日本の遊びを紹介するなどの交流活動を行いました。すでにご存じの方も多いと思いますが、「オルランド・チルドレンズ・ホーム」は 1940 年に設立され、現在は２代目のマジブコ院長のもと、多くのスタッフが子どもたちの将来を考え、愛情をもって指導にあたっています。

この孤児院は、ヨハネスブルク南西部のソウェト（SOWETO）に位置しており、地名の由来は「SOuth WEst TOwnships」の略です。日本では、この地区に関連し、高等学校の世界史で、人種隔離政策「アパルトヘイト」や「ソウェト蜂起」について学ぶ機会があります。

今回の交流には、在南アフリカ日本国大使館より内藤公使参事官ご夫妻にもご参加いただきました。1992 年に初めてミリアム・マジブコ館長と出会われたことをきっかけに、日本人学校との交流は 30 年以上にわたって続いています。交流活動は、2018 年に日本政府の無償資金協力を受けて設立された「ユース・ディベロップメント・センター」で行われました。また、アレクサンドラの柔道センターからはロベルト・オーランド氏も交流の様子を見守ってくださいました。

子どもたちは事前学習を通じて交流の目的を理解し、数回の準備や話合いを経て当日を迎えました。交流では、縄跳びや折り紙、トントン相撲、日本とアフリカの伝統舞踊の披露などを通じて、互いの文化を学び合いました。ペアになった子ども同士がしっかりと相手の表情を見ながら、さまざまな活動を通して直接触れ合い、可能な限り英語での会話にも積極的に取り組みました。なお、孤児院の子どもたちは日常的にズールー語を話すことが多いようです。

今回の交流を通じて、双方の子どもたちが得た貴重な体験が、彼らの将来にとって大きな意味を持つことを心より願っております。

マジブコ院長先生、オルランドの子どもたち、招待してくれてありがとう！
来年の国際交流を楽しみにしています。

当日、開会式に於いて、内藤公使参事官様より、オルランドの子供たちへの言葉に続き、日本語で、日本人学校の子供たちに向け、お言葉を頂きました。
大変貴重な機会であり、また、正しく宇子供たちの将来に生きるお話でした。保護者の皆様に、ご紹介させて頂きます。

オルランド孤児院での第2回国際交流会におけるオープニング（7月5日（土））
在南アフリカ日本国大使館　公使参事官　内藤　康司様ご挨拶文

サニボナーニ　みなさんこんにちは。
ウンジャーニ　お元気ですか。
ナミジコーナ　私は元気です。
ニレディ　グジャブラ　ナティ　これから楽しむ準備はできていますか？
スィヤボーンガ　ありがとうございます。

Today I am happy to be back at the Orlando Children's Home together with students from Japanese School of Johannesburg. Orlando Children's Home and Japanese School have been interacting for many years for cultural exchange and mutual learning. They are your dearest friends and partners from Japan.

I am here today with my wife Harumi, she has been here many times with me and my family. She used to be a teacher at Japanese School of Johannesburg.

I brought my close friends of mine, Fukawa family from Perth, Australia. Mr Fukawa is chairman of Japanese Association with Perth, and Head of Marubeni Cooperation in Perth.

Later we have Bernardo from Judo for Peace who is planning to share fun of Judo here in the near future.

I am also with Ms Marion Smith, a freelance journalist who is keen to cover the event in the Mail & Guardian.

I am glad that this exchange event is continuing for 30 years. Many Japanese visited Orlando Children's Home, artists such as Katsuhiko Hibino, Tokiko Kato, KEIDANREN、even Prime Minister Koizumi.

I hope you all have fun through exchange activities with your friends. Please

also tell about your culture and community. Your friends from Japan are keen to learn. You are cultural ambassador of South Africa today.

日本人学校の皆さん
私がオルランド子供の家を日本人学校の先生方に紹介して30年以上が経ちました。本日、30年経ってもオルランドと日本人学校の生徒間の交流が続いていることを見てとてもうれしく思います。マジブコ先生をはじめオルランド孤児院の先生方のホスピタリティに心から感謝します。

皆さんが南アフリカで学ぶ時間は、一生を通じても大変貴重な時間です。日本にいたのでは経験することのないことを経験することができます。皆さんは小さな外交官です。異なる文化をもつ異国の友達であっても、明るく心を開いて話をすれば、心が通じることを学びます。私自身もタイという国のバンコック日本人学校で学んだことがありますが、今思うと外交官になったのは、相手がどこの国のひとでも人間として心が通じることへの強い思いがあったからです。

南アで生まれた私の長男もオルランドとの日本人学校の交流に参加し、大学時代には東京から南アを訪問してボランティア活動を行って卒業論文を書き、現在はウガンダという国でセイブ・ザ・チルドレンという団体に所属してアルアという遠隔地の子供を保護する活動を行っています。

また、今週、皆さんの先輩、ヨハネスブルグ日本人学校の卒業生が外交官として大使館に赴任しました。6年生で日本人学校に転校し、中学部を卒業した関澤久美さんです。日本と南アフリカの貿易投資を促進する大切なお仕事をすることになりますが、小さな外交官であったヨハネスブルグ日本人学校時代の有意義な体験を、楽しそうに感慨深く話をしていました。いずれ皆さんもお会いする機会があると思います。

このように南アでの体験、異文化交流での学びは後になってから気づくのです。自分の生き方や職業選択の際のヒントにもなります。南アでの日本人学校での活動の一瞬、一瞬を大切にして、心でシャッターを押してください。

本日は、オルランドの子供たちと心を開いて精一杯楽しんで、思いやりの心を学んで下さい、きっと大切な発見がいくつもあるはずですので、帰宅したらご両親にもお話をして下さい。

ありがとうございました。　　以上